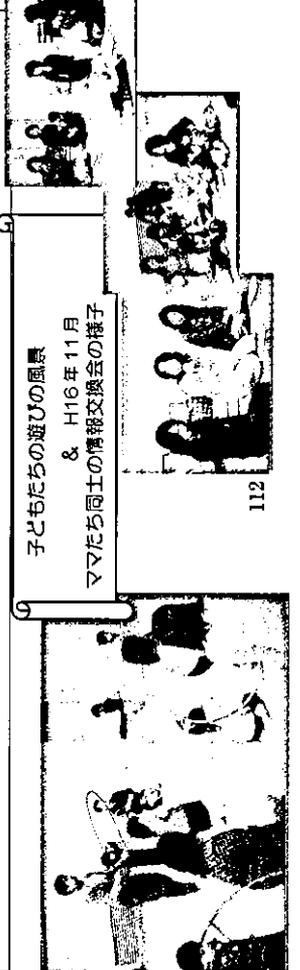


印西市中央保健センター：多胎児支援事業	
〒270-1327 千葉県印西市大森 2356-3 (TEL) 0476-42-5595、(FAX) 0476-42-5514 (E-Mail) kenkouka@ml.city.inzai.chiba.jp (ホームページ) http://www.city.inzai.chiba.jp/ 人口 59,962 人(出生数 385 人) 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・歯科衛生士・その他(看護師) 全保健師数 10 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分 市町村	
事業課題	■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	H14年度後半、双子を妊娠する母親から『双子をもつ先輩ママを紹介して欲しい』『双子の妊娠出産育児について、先輩ママからの話が聞きたい』などの声があった。母子保健担当保健師として、ハイリスクである双子やみづごをもつ家庭への支援の必要性を感じているところであった。そのため、保健センターより双子やみづごをもつ家庭へ働きかけ、交流会の開催の裏面にに向けた取り組みを行っていくことになった。 H15年度より、保健センター主体から住民主体の会となり、保健センターは会の支援という役割を中心に、双子やみづごをもつ妊婦、母親、その家族が孤立したり不安な生活をする事なく、安心して過ごせるよう、妊娠出産育児に対する多胎児支援を行っていくこととなった。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	《ねらい》 双子やみづごの妊娠出産育児に伴う身体的精神的社会的不安を解決し、交流を深めながら互いに支えあい、情報を共有し、双子やみづごをもつ母親たちが安心して地域で元気に生活することができる。 《目標》 ①妊娠中、双子やみづごの情報が得られる ②双子やみづごの妊娠出産育児について、相談できる人がいる ③双子やみづごをもつ友達が増える ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	あり
事業内容	新生児 乳児 幼児 学童 母親 妊産婦 家族 平成 15 年 4 月 ~ 平成 18 年 3 月 3 年計画 《会について》 会の企画運営、交流会の開催(月1回)、役員会の開催(月1回)、 交流会の通知文の作成と配布(月1回)、交流会の報告書の作成と配布(年1回)、リサイクルコー ナーの実施、名簿・連絡網も作成・管理(会員について)、保健師とともに家庭訪問等での先輩ママ としての個別支援 《保健センターとして》 ①情報提供：妊娠・転入による対象者の把握・管理、妊娠・転入者への会の紹介、会の入会へ の支援、双子やみづごの子育て情報の提供 ②会の企画運営支援：企画運営に関する相談・情報提供等による支援、交流会や役員会での 支援、交流会の通知文や報告書の作成・配布に関する支援 ③リーダー育成：役員会等での支援などにより、会の立ち上げから成長に向けた活力が上がる ための支援 ④関係機関等との調整：双子やみづごへの支援に関する情報連携、会場借用に関する支援、 関係機関や職種の調整、講師依頼に関する調整(講師としての家庭児童相談員、看護師、栄養 士、歯科衛生士等) ⑤その他：家庭訪問等の個別支援が必要な場合(主に、妊娠や出産後1年の家庭等)、先輩 ママからの協力を得て、双子やみづごの妊娠出産育児に関する支援のための市民との協同。

実施内容	■相談機能の強化 ■その他(市民活動支援)
協力機関	住民参画状況 ■計画から参加 ■実施主体側として その他(児童館) 補助金・助成金 なし
従事者内訳	保健師
事業の評価	《評価方法》 ①アンケート調査(H16年4月実施(第1回))による評価 ②リーダーへのインタビューによる評価 交流会の参加者の感想(年度末に交流会のテーマとして設け、感想や意見を発表してもらう)によ る評価 《評価結果》 ①妊娠中、双子や三つ子の情報が得られる…44.4% (8人/18人中) ②双子や三つ子の妊娠出産育児について相談できる人がいる…100% (15人/15人中) ③双子や三つ子を持つ友達が増える…91.0% (10人/11人中) 《感想》 「なにか双子だと外に出る機会がなかったが、交流会があるとほんとに頑張ってた外に出る機会に なり、気分転換できてよかった。 ・双子やみづごの悩みを共有できて本当に安心する。 ・先輩ママの話が聞けて、とても役立つ。 ・交流会に参加すると、元気が出て、頑張ろうという気持ちになれる。 《リーダーインタビュー》 「役員をはじめとして試行錯誤したが、皆が参加してくれたのが広がると嬉しい。 ・妊娠中からこういう会があると安心して妊娠出産育児を迎えることができるので、自分達ができる ことをしていきたい。 ・自分達も、もつと上の先輩ママ(小・中学校のママ)に双子の思春期などの話を中心に聞く機会が 欲しい。 ・リーダーは責任が重いので、皆でやっていけるようにしていきたい。 ■今後も継続する
今後の課題	会の立ち上げ当初の目的が達成されつつあり、新たな目的目標が見え始めてきた状況である。会 自体の成長もあらわれているため、会の方向性について、検討していくことが課題である。 リーダーの負担が大きくなっているため、その支援が課題である。 H15年度から自主的運営になったため、会費性として、脱会者や参加に躊躇する母親が多く なっている。 そのため、会への支援について検討していくことも課題のひとつである。
キーワード	多胎児支援 交流 ■地域の子育て支援の充実 ■いいお産



キーワード	育児教室 父親教室 ■虐待の発生予防
コメント	**** コメント **** 父親と母親の両方を対象とした育児教室である。核家族化が進んでおり、母親の家事や育児への負担が増加しているが、それを解消するためには父親が家事や育児に積極的に参加していくことが重要である。この事業では父親が育児教室でただ単に講話を聞くだけでなく、実際に調理実習を行い、またそれを試食するということが行われている。実際に実習を行うことで食や家事・育児への関心を高めようという工夫がされており評価できる。(TT)



唐津市保健福祉部保健課：お父さんの子育て学級	
〒847-0041 佐賀県唐津市千代田町2566-11 (TEL) 0955-75-5161、(FAX) 0955-75-5162 (E-Mail) hokencen@city.karatsu.saga.jp (ホームページ) http://www.city.karatsu.saga.jp/	
人口 80,172人(出生数 812人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 7人(母子保健担当保健師数 2人) 区分:市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	核家族化がすすみ、母親の育児、家事負担が増加しているため、父親の家事や育児への関心を高め、家族で食卓を囲む大切さ、楽しさを感じてもらおう。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	父親の家事や育児への参加を促し、母親の子育てが孤育てにならないよう支援するもの。 また父親の食への関心を高め、家族で食卓を囲む大切さ、楽しさを感じてもらおう。 ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	なし
対象	父親 母親 妊産婦
実施期間	平成 13 年 4 月 ～ 未定
事業内容	父親と子供の触れ合い時間づくりと、調理実習を行うことで、家事への参加も促す。 1.オリエンテーション 2.栄養士の講義 3.父親⇨調理実習/母親⇨子育ての講話 4.試食 5.質疑応答、アンケート 6.全員で後片付け
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 栄養士 保育士
補助金・助成金	都道府県
事業の評価	アンケート/参加してよかったとほとんどの方から聞くことができた。 普段の母親の大きさを実感できた。できるかぎり手伝いたい。 同じ参加者同士の子供たちが遊んでいるのを見られていつもと違う子供の一面をみることにできた。 ■今後も継続する
今後の課題	1 回の参加者がまだまだ少ないので、今後より多くの人に参加してもらえよう声かけを行う。

事業の評価	1, 参加人数・・・ 参加延人数 (H8-252 人、H9-317 人、H10-213 人、H11-392 人、H12-240 人、H13-190 人、H14-240 人) 2 参加者へのアンケートや反応
今後の課題	・個別フォローの充実 ・保健所の発達相談、わかあゆ園など他機関との連携強化
キーワード	子ども 育児不安 ■ 病気や障害のある子どもへの支援
コメント	*** コメント *** 言語発達の遅れ・他動・情緒不安定など発達上、何らかの問題を有する要フォロー児に対して療育・支援事業である。要フォロー児への支援としては健診時の相談や集団を対象とした相談教室などが行われることがあるが、いずれも養育者・対象児両方にとって不十分なことが多く、養育者の不安の解消を十分に出来ていない。この事業は市町村の保健センターという身近な機関が実施しており、また月に 3 回という頻度で行われていること、対象児一人一人について個別援助計画を作成し療育を実施していること、また保育士や臨床心理士とも連携して専門職を活用した支援が行われており評価できる。(TT)



社町保健介護課 保健センター : 療育事業(ナーサリールーム)	
〒673-1431 兵庫県加東郡社町社 10 (TEL) 0795-42-2800、(FAX) 0795-42-3978	
人口 21,457 人(出生数 225 人)	区分: 市町村
母子保健担当者: 保健師、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 4 人)	
事業課題	■ 子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	言語発達の遅れ、多動、情緒不安定、対人関係が未熟などの問題を抱えた要フォロー児が増加し、それに伴って養育者の不安、相談が増加している。健診時や相談教室だけでは、要フォロー児の支援が充分に実施できなかつたため。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい	発達上何らかの問題を有する幼児に対して、その問題の改善を図りながら、養育者がより良い子育てを考える場を提供する。併せて対象者の個性を尊重し、人間性豊かな生活を送れるよう援助する。
事業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■ 住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■ 住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	なし
対象	乳児
実施期間	平成 4 年 4 月 ~ 未定
事業内容	<p>月 3 回/月曜日 AM10:00~11:30 実施している。</p> <p>① 対象児 1 人 1 人の個別援助計画を作成 (初回アセスメント、目標設定、臨床心理士による児の発達チェック、評価)</p> <p>② プログラム (自由遊び、リズム体操、設定遊び、おやつ、ポリアンナタイム《子どもの良かったところを見つめる目を養う》)</p> <p>③ 保護者への支援(イ、親の会: 月 1 回 ロ、父親参観: 年 3 回 月曜日開催 ハ、個別面接)</p> <p>④ 専門的支援 設定遊びは保育士が担当/障害受容など精神的支援は臨床心理士が担当</p> <p>■ 個別支援や集団支援のツール開発</p>
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 栄養士 保育士 その他
補助金・助成金	市町村

キーワード	海外 子育て	■地域の子育て支援の充実
**** コメント ****	外国人の母親の子育て支援を目的として始まった事業である。現在、日本に居住する外国人は年々増加しており、日本で出産し母親となる外国人女性も増加している。そのような母親の場合、どうしても地域の中で孤立しがちになり、また育児についての不安も日本人の母親よりさらに大きくなる可能性がある。不安解消のために外国人の母親同士の交流の場を設けるだけでなく、日本人の母親との交流も行うことで、地域での仲間づくりが出来るようになっていく。母親になる外国人が増えている日本において、他の地域にも拡がっていくことが望まれる事業として評価できる。(TT)	



長門町和田村保健福祉総合センター：子育て交流会	
〒386-0603 小県郡長門町古町 2869-1 (TEL) 02668-68-3494, (FAX) 02668-68-3798 (E-Mail) hoken-03@gaea.ocn.ne.jp	
人口 7,863 人(出生数 40 人)	区分:市町村
母子保健担当者:保健師、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 2 人)	
事業課題	■子どもの心やかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	海外から日本へ結婚するために来る女性があり、孤立していたり、不安があったりする。仲間づくりも兼ね、地域を知ったり、日本での子育てを安心してできるよう支援する必要がある。また、日本の母親や子どもの仲間づくりの場の提供も必要であった。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	・海外から来た母親同士が、子育てや日本の生活についての悩みを解消したり不安を軽減する。 ・日本の母親との交流を通して、地域での仲間づくりができる。日本の親も仲間づくり、憩いの場とする。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	なし
対象	乳児 幼児 父親 母親 妊産婦 家族 その他(祖父母)
実施期間	平成 13 年 7 月 ~ 未定
事業内容	・調理実習(タイ、中国、韓国料理) ・計画の打ち合わせ ・話し合い・・・最初は海外の方のみでやっていたが途中から日本の母との交流もするようになった。 ■個別支援や集団支援のツール開発
協力機関	子育て支援センター
住民参画状況	計画から参加
従事者内訳	保健師 保育士
補助金・助成金	なし
事業の評価	今後検討 ■今後も継続する
今後の課題	自主性を持ち、自分達のグループ活動にできればよい。

住民参画状況	その他(アンケート)により保護者に協力を得る)
従事者内訳	保健師 助産師 医師 児童福祉主事 保育士 教員 養護教諭 その他(民生児童委員・ケースワーカー)
補助金・助成金	なし
事業の評価	QOL指標 1 子どもを虐待しているのではないかと思う保護者の割合(37.5%より減少) 行動学習指標 1 育児について相談する人が身近にいる保護者の割合(62.3%より増加) モニタリング 1 虐待疑いで連絡や通報があった件数 ■数値目標を評価した
今後の課題	育児不安と虐待との境界例に対して、正しく理解、判断し 丁寧な関わりを行うための訪問時に即使用できるマニュアル作成
キーワード	育児不安と虐待との境界例 母子への育児支援の充実 関係機関との迅速且つ円滑な連携 ■虐待の発生予防 **** コメント **** 児童虐待に対する予防対策事業である。事業実施前のアンケート調査結果(虐待をしているのではないかと 思われる保護者の割合が生後2ヶ月児をもつ保護者で高い)をもとに生後2ヶ月児をもつ保護者を対象に子育ての 様子の確認が行われている。また、様々な機会を利用して保護者の気持ちの調査が行われ、虐待予防対策の 実施、虐待の早期発見へとつながっている。近年注目されている児童虐待(児童相談所等)や民生児童委員・ ケースワーカー等に当たりアセスメントが行われていること、他の関係機関(児童相談所等)や民生児童委員・ ケースワーカー等とも連携して事業が行われており、良くてきている事業である。(TT)



松山市保健所：児童虐待予防対策	
〒790-0813 愛媛県松山市壹町6丁目30-5 (TEL) 089-911-1813、(FAX) 089-923-6627 (E-Mail) kenkou@city.matsuyama.ehime.jp (ホームページ) http://www.city.matsuyama.ehime.jp	
人口 475,583人(出生数 4,643人) 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・その他(心理判定員) 全保健師数 62人(母子保健担当保健師数 3人) 区分:政令市・特別区(本庁・保健所等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	1 虐待疑いで保健所に連絡がある件数が増加傾向にあり、また育児不安を持つ保護者も 確実に増加している。 2 アンケートの結果より「虐待をしているのではないかと思う保護者の割合」の調査結果より 2か月児をもつ保護者が最も多い。 3 育児不安が強い保護者ほど「虐待をしているのではないか」と思う割合が高くなっている。 4 育児の相談者がいる人は、「虐待をしているのではないか」と思う割合が少ない
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	子どもが心身ともに健やかに発育するために、児童虐待の防止と早期発見、再発防止の取り 組みがなされる。 ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	あり
事業内容	新生児 乳児 幼児 学童 父親 母親 妊産婦 家族 関係者・関係機関 平成14年4月～平成19年3月 5年計画 ○虐待予防対策 1 2か月コールの実施 (生後2か月児を持ちそれまでに保健所のサービスを受けていない人に子育ての様子を 確認する) 2 各種母子保健事業における問診票に保護者の気持ちに関する項目を加え更に、 関係機関と連携をとりながら育児支援を実施 ○虐待をしている保護者への育児支援 1 連絡があった保護者に対して関係機関(児童相談所等)と連携のもと早急に対応し また、保健師個人の対応ではなく組織として対応する 2 対応した情報を集約、整理、分析を行い今後につなげる ■相談機能の強化 ■ネットワークの推進 ■ケアシステムの構築 ■マニュアル・ガイドラインの作成
協力機関	福祉事務所 児童相談所 子育て支援センター 保育園 幼稚園 警察 病院 診療所 地域のボランティア

*** コメント ***

児童虐待の早期発見・早期支援のための事業である。乳幼児健診未受診家庭では虐待のリスクが高いとの報告があり、その層への介入を行っている。電話や訪問で未受診家庭に対して受診を促し、それでも受診しないケースには訪問でフォローを行っている。また、必要に応じて保育所や他の機関から情報を集めるなど、他の機関との連携も行われている。児童虐待の早期発見・早期虐待の早期発見・早期支援のための手段の一つとして、今後同様の取り組みが広がっていくことが望まれる事業である。(TT)



宮代町健康課(宮代町保健センター)：乳幼児健診未受診フォロー	
〒345-0801 埼玉県南埼玉郡宮代町百間 1119 番地 (TEL) 0480-32-1122、(FAX) 0480-32-9464 (E-Mail) kenkou@town.miyashiro.saitama.jp (ホームページ) http://www.town.miyashiro.saitama.jp/	
人口 34,409 人(出生数 217 人) 母子保健担当者・保健師、全保健師数 7 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分：市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	乳幼児健診未受診児の中には虐待のハイリスク者が多いため。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	未受診児フォローを行うことで、虐待の発生予防、早期発見、早期支援を行う。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	なし
対象	乳児 幼児 父親 母親 家族
実施期間	不明～未定
事業内容	地区担当保健師が電話や訪問等で未受診の理由を確認。次回の受診を促す。何度も受診勧奨しても受診しないケースには、訪問での児の発達確認と母と面接で経過フォローを行う。受け入れが悪い場合は、保育所や他の機関から情報を集めケースの状況の把握。未受診児台帳で何度も受診しないケースを確認できるようにしている。 ■既存事業の工夫
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	なし
事業の評価	各健診の受診率が県内平均より高い。 ■今後も継続する
キーワード	乳幼児健診未受診児フォロー 虐待 ■病気や障害のある子どもへの支援 ■虐待の発生予防

幡豆郡吉良町保健環境課(保健センター)：ワーキングママサロン	
〒444-0516 愛知県幡豆郡吉良町大字吉田字大切間 17-3 (TEL) 0563-32-3001、(FAX) 0563-32-3144 (E-Mail) hokencenter@town.kira.lg.jp (ホームページ)	
人口 22,283 人(出生数 183 人)	区分: 市町村
母子保健担当者: 保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 5 人)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	マタニティ教室OG会の参加者から、育児が終わって復職した後、親子サークルなどには入ることができないので、親子で行く場がなく、他の母親たちから孤立するの不安だという声が聞かれ、働きながら子育てする母親の仲間づくりの必要性を痛感した。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	仕事を持つ母親の子育てを支援し、仲間づくりをすることによって子育ての不安を軽減する。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	なし
対象	乳児 幼児 母親
実施期間	平成 14 年 4 月 ~ 平成 19 年 3 月 5 年計画
事業内容	仕事を持つ母親の子育ての情報交換・子どもの遊び・育児相談などを実施している。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化 ■ネットワークの推進
住民参画状況	計画から参加
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	なし
今後の課題	保育園等の情報を提供する必要があるため、児童福祉担当の説明会を検討する。
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実 ■虐待の発生予防
*** コメント ***	仕事を持つ母親への子育て支援事業である。核家族が増えている状況では、育児についての不安解消のために他の母親たちとの交流が重要である。仕事を持たない母親は親子サークルや親子教室を通じて交流の場を持つことが出来るが、仕事をを持つ母親が仲間づくりをする場はあまり設けられていない。現在、仕事をを持つ母親は増加しており、今後同様の事業が広まることが望まれ、その点でこの事業は先駆的な事業として評価できる。(TT)

ワーキングママサロン

ワーキングママサロンはママたちの希望ではじまった集まりです。平成 13 年度からはじまりました。毎月第 2 土曜日の 10 時～正午に総合保健福祉センターで実施しています。メンバーは 12 人です。内容は自由遊びとママ同士のおしゃべり、情報交換が主で、軽食をとって終わります。育休中から参加している人もいます。



従事者内訳	保健師 栄養士 助産師 医師 歯科医師 歯科衛生士 事務職員 保育士 教員 養護教諭
補助金・助成金	市町村
事業の評価	■数値目標を評価した
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実 ■小児医療の充実 ■子どもの事故防止 ■虐待の発生予防 ■思春期における性教育の推進 ■食育の推進 ■妊娠中からの母子歯科保健の推進
コメント	**** コメント **** 「おっぱい育児推進事業」というユニークな名前が付いた子育て支援事業である。市町村の事業名や都市宣言の名称は堅いものが多いが、ここでは市議会で平成7年に「おっぱい都市宣言」という親しみやすいネーミングの都市宣言が採択されており、それ以降、様々な子育て支援事業の名称に「おっぱい」という言葉が使われている。(おっぱいまつり、おっぱい電話相談、おっぱい体操、等)住民に親しみやすさを感じさせる工夫をしている点で評価できる事業である。(TT)



光市健康増進課：おっぱい育児推進事業	
〒743-0011 山口県光市光二丁目2番1号 (TEL) 0833-74-3007、(FAX) 0833-74-3072 (E-Mail) kenkouzoushin@city.hikari.yamaguchijp (ホームページ) http://www.city.hikari.yamaguchijp/	
人口 56,036 人(出生数 456 人) 母子保健担当者:保健師・栄養士・歯科衛生士、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	光市では、母乳栄養率が全国平均に比べて極めて高かったことから、当初はこれを維持推進していくことから始まった。その後、母乳が出る人も出ない人も、胸＝おっぱいでしっかりと赤ちゃんを抱きしめたい、ふれあいの子育てをしてみようという方向性を見出した。平成7年3月光市議会にて「おっぱい都市宣言」が採択された。
提案者	その他(保健師全員)
事業のねらい・目標	おっぱい育児とは、ふれあいの子育てを楽しむこと。また、親子がみづめあい、スキンシップをしっかりとすること。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	あり
事業内容	新生児 乳児 幼児 学童 思春期 父親 母親 妊産婦 家族 関係者・関係機関 昭和 51 年 9 月 ～ 未定 おっぱい育児の推進 ・おっぱい冊子配布 ・おっぱい体操(親子編・大人編) ・おっぱいまつり ・おっぱい相談電話 ・母親教室にて「優・YOU・お産とおっぱい」の講義 ・保健師による新生児訪問指導・乳児訪問指導・育児相談 など
協力機関	保健センター・保健所 子育て支援センター 保育園 学校 教育委員会 警察 消防署 病院 診療所 地域のボランティア
住民参画状況	計画から参加 実施主体側として

今後の課題	夫の参加が、今後のびびっていくかどうか。 育児を具体的に手伝ってもらったための沐浴や話をしてほしいという要望があったが、プログラムの中に入れることは、困難なため、今後どう対応するか。
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実 *** コメント *** 赤ちゃんとふれあう機会を設けた妊婦教室である。赤ちゃんとふれあひ体験を通して、育児への漠然とした不安の軽減や初妊婦同士の交流の場を設けることを目的として行われている。一般的に妊婦教室は妊婦のみが参加して行われることが多いが、妊婦教室の中に赤ちゃんやその保護者との交流の機会が設けられており、核家族の増加や地域での交流の減少に伴い妊婦の中には赤ちゃんを抱いたことがない人も増えている現状において先駆的な事業といえる。(TT)



合志町福祉課：妊婦あかちゃんふれあひ体験事業	
〒861-1195 熊本県池郡合志町大字竹迫 2140 (TEL) 096-248-1111, (FAX) 096-248-1196 (E-Mail) koshi-machi@town.koshi.kumamoto.jp (ホームページ) http://www.town.koshi.kumamoto.jp/	
人口 22,542 人(出生数 209 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	核家族化、転入、結婚等により、合志町で生活する夫婦が相談できる人が少ない、知り合いがないという中で子育てをして、育児不安を抱えながら生活している人もいるという状況から、育児支援の面から知り合いを増やしてもらうこと、又、あかちゃんを抱いた経験のない初妊婦もいることから取り組みを考えた。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	妊婦及びその夫が、あかちゃんを抱いたり世話をするなどふれあひ体験をすることにより、また、子育て中の母親と話すことで、生まれてくる子どもを待ち望む気持ちを高める。 育児への漠然とした不安を安心感へ変えるためのひとつの方法。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	なし
対象	その他(初産婦及びその夫)
実施期間	平成 15 年 6 月 ~ 平成 19 年 3 月 4 年計画
事業内容	現在実施の母親学級(2 回を 4 クール)の 3 回目として、初妊婦及びその夫を対象として開催。 毎月実施の健康相談に、25 組くらいの親子が参加するため、その場をふれあひ体験として協力してもらう。 初妊婦同士の知り合いの場となる。 3ヶ月に 1 回の実施。 6 月は、通知者 27 名に対し、9 人の初妊婦と 2 人の夫が参加 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 栄養士 その他(看護師)
補助金・助成金	なし
事業の評価	終了後、アンケートを実施。あかちゃんを抱っこしてどうだったか、などの感想を記入してもらった。出産後、参加者を全員訪問を目標にして、ふれあひ体験がどのように役立ったかの確認をする予定。

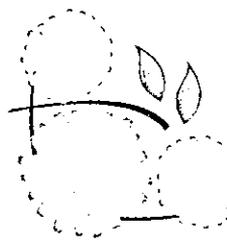
見に関しては必要な場合早期に療育へつなげることのできる場として活用されている。 ■今後も継続する
対象児への関わり方と、母親へのフォローのレベルアップ。 対象児が増えてきていること、年齢差があることなどから、年齢でグループ分けするなど、運営方法の見直しが必要。
キーワード 教室 発達 支援 ■地域の子育て支援の充実
*** コメント *** 発達に遅れやつまずきのある子どもとその保護者を支援するための事業である。この事業には保健師とともに保育士が関わっている。保護者と保育士・保健師とのコミュニケーションツールとして連絡ノートを用いており、また保育士と保健師が同伴訪問することで家庭での親子の様子を確認し、より細かな相談・支援が行われている。保健師だけの単独での家庭訪問が行われることが多い中で、保育士と同伴で家庭訪問を行っており、それぞれの専門的立場からきめ細かなフォローが行い点で評価される事業である。(IT)



<p>有田市健康対策保健指導係：あそびの教室 〒649-0392 和歌山県有田市真島 50 番地 (TEL) 0737-83-1111、(FAX) 0737-82-1725 (E-Mail) kentai@city.arida.wakayama.jp (ホームページ) http://www.city.arida.wakayama.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WT_template=AM04000</p>	
人口 33,661 人(出生数 320 人) 母子保健担当者:事務・保健師、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 7 人) 区分:市町村	
事業課題 ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景 発達に遅れやつまずきのある子どもの育ちを支援する為、発達の遅れから育児不安になりがちな家族を支援する為の場が必要である。 また、保護者の育児ベタ、地域で気軽に相談できる人がいないなど、様々な育児不安や育児ストレスを持つ保護者の支援も必要である。	
提案者 母子保健担当者	
事業のねらい・目標 教室を通じて、子どもたちが集団の中で意欲的に楽しく活動することにより、よりよい発達を支える。 母親同士の仲間作りの場の提供、交流を通じて、保護者自身の成長を支える。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標 なし	
対象 幼児 父親 母親 家族	
実施内容 毎週 1 回実施。 親子遊びや、子どもの持つ力に応じた遊び、季節の行事、おやつ調理など。 教室の中で、保健師や保育士が個別に悩みを聞いたり相談を受けたりできる時間を設ける。 保育士・保健師が同伴訪問し、家庭での親子の様子を確認し、より細かな相談・支援を行う。	
事業内容	■相談機能の強化
協力機関 子育て支援センター 保育園	
住民参画状況 なし	
従事者内訳 保健師 栄養士 保育士	
補助金・助成金 なし	
事業の評価 保護者と保育士・保健師の連絡ノートを使い、毎回の感想や家庭での児の様子など、また保育士・保健師からは児の伸びやアドバイスなどをやりとりすることで、より細かな支援ができています。 子育てのしにくさ、発達につまずきのある子を持つ母親に対してのフォローの場として、	

***** コメント *****

乳幼児の保護者を対象とした育児に伴うこの問題への対策事業である。児童虐待の予防や育児不安の解消のために、産後うつスケールの実施やグループカウンセリングが取り入れられるようになってきているが、その後のフォロー体制が十分でないことも多い。この事業では産後うつスケールで高得点者にはマザーメンタルに理解のある精神科医師によるフォロー、中得点者には心理相談員による面接が行われており、フォロー体制が用意されている点で評価できる事業である。(TT)



<p>東京都杉並区杉並保健所：保護者のこころの相談</p> <p>〒167-0051 東京都杉並区荻窪 5-20-1 (TEL) 03-3391-1025、(FAX) 03-3391-1927 (E-Mail) sui50040@city.suginami.tokyo.jp</p> <p>人口 524,835 人(出生数 3,655 人) 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・歯科衛生士・その他(医師、歯科医師)、全保健師数 50 人(母子保健担当保健師数 50 人) 区分:政令市・特別区</p>		
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景	4か月健診での産後うつスケールの実施や、グループカウンセリング等の多様化してきた虐待予防事業の中で、専門家による見立てや助言が必要になってきた。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	乳幼児の保護者の育児不安、育児負担感によるこの問題への専門相談を行うことにより保護者が安心して育児ができるよう支援するとともに、早期に虐待予防を図る。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	あり	
対象	父親 母親	
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 17 年 3 月 2 年計画	
事業内容	5保健センターにおいて実施。マザーメンタルに理解のある精神科医師が年に4回、心理相談員が年に9回。対象は主に、産後うつスケールで20点以上の高得点者や診断が必要な人は精神科医師へ、中得点者は心理相談員の面接を実施。面接中、児は保育士が託児を行う。 ■相談機能の強化 ■個別支援や集団支援のツール開発	
事業内容	協力機関	病院 民間相談機関
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 医師 事務職員 保育士 その他(心理相談員)
	補助金・助成金	なし都道府県
事業の評価	今年度から実施の事業であるため、評価はまだ行われていない。 ■今後も継続する	
今後の課題	15年度新規事業の「保護者のこころの相談」及びグループカウンセリングの活用と評価及び高得点者の1歳6か月健診での対応について検討していく。	
キーワード	虐待予防 専門相談 ■地域の子育て支援の充実 ■虐待の発生予防	

事業の評価	未受診者の状況が把握できた割合で評価
今後の課題	外国人の未受診者が多く、電話番号がすぐに繋がり連絡が取れない、居間働いていて住所地に住んでいないなどのこと があり、言葉が通じない、外国人登録は市にあるが帰国して住んでいないこと 国際交流協会の協力を得て、手紙を翻訳してもらったり、通訳と動向で訪問することができるが 状況が把握できないことが多い。
キーワード	子ども 育児不安
**** コメント ****	ここに注目！ー 乳幼児健診未受診者への対策は多くの市町村の課題であるが、毎年の実績値の積み上げ を単に報告として用いるのではなく、日常業務を分かりやすい形で数値化して評価している点が注目される。そ の結果として、外国人家族という具体的な支援対象者が明確化でき、かつ「電話番号がすぐに繋がり連絡が取れ ない、居間働いていて連絡がつかない、言葉が通じない、外国人登録は市にあるが帰国して住んでいないこと に結びつ けることが可能となったといえよう。 エビデンスは？ー 子育て支援の立場から乳幼児健診未受診者へのアプローチが必要とのかけごえは高いも の、その方法論については個別の保健機関ごとの事例報告が散見されるのみである。有効な人的資源の利 用方法、住民の同意を取りつけるために必要な条件などぜひともエビデンスの集積が必要である。(YY)



湖西市市民健康課：乳幼児健診事業（未受診者追跡の強化）	
〒431-0442 静岡県湖西市古見 1044 (TEL) 053-576-4794、(FAX) 053-576-1150 (ホームページ) http://www.city.kosai.shizuoka.jp/	
人口 44,487 人(出生数 425 人) 母子保健担当者:保健師・栄養士・歯科衛生士、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 湖西市では年齢が上がるにつれ健診の受診率が低下する傾向にあります。 平成 13 年度受診率は 1 歳 6 カ月児健診で 93%、3 歳児健診では 86%でした。 平成 14 年度では 1 歳 6 カ月児健診 95.8%、3 歳児健診 94.5%でした。 したため受診率が上がったと思われま す。 未受診者は主に外国人ですが、日本人の中で未受診のケースには養育面で心配があったり、 虐待が疑われるケースがあるため追跡を強化し未受診者の状況を把握するとともに、 受診率の向上に努める必要があります。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	発達の前目である 1 歳 6 カ月、3 歳児の時点で健診を実施し、疾病や発達障害の早期発見を する。 また相談を実施し、幼児の健康の保持増進と保護者の育児支援を行う。 健診の未受診者の追跡を強化することで、支援の必要なケースを見落とさず、フォローしてい ける体制を作る。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	あり
対象	幼児
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月 5 年計画
実施内容	未受診者に対し、次回健診を受けよう電話をかける。 電話が通じない、電話を掛けても未受診の者に対し、ハガキで誘いかける。 ハガキを出しても未受診の者に対しては、1 カ月間をおいて 3 歳児健診のアンケートや検査の セット 1 式を送付。 それでも未受診の者は、地区担当から電話で様子を確認したり、幼稚園・保育園等へ確認す るなどして状況を把握する。 ■既存事業の工夫
協力機関	その他(国際交流協会)
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	なし

今後の課題	平成15年度も継続事業。昨年度のグループから自主グループが立ち上がった。 平成15年度は自主グループの育成にも保健所として協力。 今年度のほっと・はーと・めいとクラブのピアを考えている。
キーワード	CG 虐待防止対策事業 虐待予防 ■虐待の発生予防
*** コメント ***	ここに注目！— 保健機関を中心としたMCG(mother and child group)に先駆的に取り組んだ活動である。現在までに育児不安を抱えた母親の自主グループが立ち上がったという結果が得られ、構造や目的が具体的に他機関への情報としても有用である。コース終了後アンケート調査らびに3年間終了後アンケート調査が企画されており、その調査結果が期待される。できればホームページなども用いて事業評価を公表できると、参加者にも他機関にも有益かもしれない。(YY)
コラム	保健機関におけるMCG活動 虐待する母親の自助グループとして、社会福祉法人子ども虐待防止センターやCAPNA(子ども虐待防止ネットワーク・あいち)などにおいて当事者同士が語りあうMCG(mother and child group)活動が始まり、虐待問題を訴える母親をケアすることで虐待の重症化を防ぐ(虐待予防)、分離母をケアすることで家族の再構築を図る(再統合)の役割が見出されている。保健機関においても、子育て不安等の悩みを抱えた母親同士が、保健師などのコーディネーターのもとに、小集団で語り合い、お互いに支え合う場を作り、地区担当保健師の継続支援と表裏一体となった支援としてのMCGの取り組みが行われている。その結果として、参加者が仲間と出会い、共感を得ることによる希望、自己肯定感の回復、社会的適応技術の発達などが認められる(中板育美 2002年)などの報告がある。(YY)

児童虐待に関する保健機関の役割は、虐待予備軍の悪化を防ぐ予防活動が必要と考え、平成16年度はこれまでの3年間の事業を評価し、定例的な事業として地域に定着させていくため、有効な虐待予防の支援体制について検討することにしました。

そこで「ほっと・はーと・めいと・くらぶ」の効果について、東京医科歯科大学清水洋子氏の指導により「子育て支援におけるグループ療法の効果に関する調査票」を使用し、過去3年間のクラブ参加者を対象に、クラブ参加初期と参加後を振り返り、①「育児困難感」②「子育てに対する罪悪感」③「子どもとの関係」④「子ども以外との関係」⑤「共感・受容・孤独感」⑥「対処(自己表現・SOSの発信・他者への信頼、資源活用、家事罪悪感)⑦「グループの必要性」について保健師による聞き取り調査を実施し、現在分析中です。

愛知県半田保健所：虐待防止対策事業（ほっと・はーと・めいとクラブ）	
〒475-0903 愛知県半田市出口町1丁目45番地4 (TEL) 0569-21-3341、(FAX) 0569-24-7142 (E-Mail) handa-hc@pref.aichil.jp	
人口	224,164人(出生数 2,305人)
母子保健担当者	保健師、全保健師数 8人(母子保健担当保健師数 2人) 区分: 都道府県保健所
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	虐待の相談事例が増え、また、核家族、少子高齢化、若年の妊娠等、子育てをしていく社会背景が変化していく中、子育て不安、子どもがかわいくない、孤独等子育て中の親へのサポートが必要になってきている。虐待予防の視点でこれらの親に早期に係わりを持ち支援することが大切であると考え虐待防止対策事業を実施した。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	育児不安を抱える母親等の増加、児童虐待が社会問題となっている。 家庭における育児機能の強化が求められる中、虐待問題も予防的見地から保健分野からも取り組む必要がある。そこで、育児不安を抱える母親を対象にグループワーク(MCG)を実施し、子育ての悩み等を表出することにより、自分の気持ちを整理し、また、他の母親の話を聞くことにより共感を覚え、自分の気持ちをコントロールできる母親が増えることを目的とする。
数値目標	■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
対象	乳児 幼児 母親
実施期間	平成13年9月～平成16年3月 3年計画
事業内容	2週間に1回、6回コースで実施。1グループ7～9人、2グループ。親子遊び後、母子分離をし、MCG方式でグループワークを実施。コーヒーブレイクを導入し、ゆったり話せる雰囲気づくりに気を配った。 ■個別支援や業団支援のツール開発
協力機関	地域のボランティア
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 保育士 その他(臨床心理士)
補助金・助成金	都道府県
事業の評価	①コース終了後アンケート調査を実施。 ②3年間終了後アンケート調査実施し、その後の子育てへの気持ち等を把握

キーワード	サークル 保育所開放 ■地域の子育て支援の充実
*** コメント ***	ここに注目！ー 人口 3,609 人の町で、月 1 回継続して町内 4 保育所を園庭開放し、保育所に入所していない子どもと保育所入所児との交流の場が設けられている。園庭開放が保育所単独で行われるのではなく、保護者の交流を大きな目的とし、評価として在宅の親子に参加状況や個別インタビューを行うなど保健活動の視点が入っている。人口規模の少ない自治体での有効な資源活用のモデルともなり得る事業である。今後、孤立しうな家族への誘いかけの工夫やその結果についての検討も望まれる。 エビデンスは？ー 保育や幼児教育分野では園庭開放による子ども・保護者の交流が盛んに行われている。その中から保護者の個別の相談に保育士が対応することで子育て不安が軽減されたなどの事例の報告は多数認められている。一方、通常の園庭開放は自由参加であり、参加を望まない家族の存在が課題でもある。この地域での経験が、孤立しそうな家族に対してもこうした取り組みが有効となりえるか、どのような工夫が必要なのかとのエビデンスが生まれることを大いに期待する。(YY)



桜江町役場健康福祉課：ひよこサークル	
〒699-4292 島根県邑智郡桜江町大字川戸 11-1 (TEL) 0855-92-1211、(FAX) 0855-92-0905 (E-Mail) hukusi@sakurae.jp	
人口 3,609 人(出生数 20 人)	区分:市町村
母子保健担当者:保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1 人)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	保育所に入所していない子どもは同年代の子どものとふれあふ機会が少ない。 またその保護者も保護者同士での関わりが少なく、不安を抱え込む人もいる。 地域・保育所で何か取り組みができないか考えた。
提案者	その他(住民の声、町保健師)
事業のねらい・目標	・ 在宅の子どもと保育所の子どもがふれあひ関わり合うことで、遊びの楽しさを感じ、豊かな子どもに育ち合う。 ・ 保護者の育児に関する悩みや不安を周りの子どもたちを通して見つけ直し、考え合う。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	なし
対象	幼児 父親 母親 家族
実施期間	平成 11 年 4 月 ~ 未定
実施内容	毎月第 2 火曜日に、町内 4 保育所を園庭開放し、 保育所に入所していない子どもと保育所入所児との交流の場をもつ。保育所の行事にも参加を呼びかける。
事業内容	■個別支援や集団支援のツール開発
	協力機関 保育園
	住民参画状況 なし
	従事者内訳 保健師 保育士
補助金・助成金	なし
事業の評価	在宅の親子や保育所に参加状況を聞く。各保育所毎月 2~3 組の参加があり、友達と遊んだり、大きな遊具でダイナミックに遊べることが楽しいとの声あり。
今後の課題	保育所開放日の PR、参加呼びかけの継続

樟豆郡吉良町保健環境課(保健センター)：祖父母会 〒444-0516 愛知県樟豆郡吉良町大字吉田字大切間 17-3 (TEL) 0563-32-3001、(FAX) 0563-32-3144 (E-Mail) hokencentre@town.kira.lg.jp	
人口 22,283 人(出生数 183 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 5 人) 区分:市町村	
事業課題 ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減	
事業の背景 吉良町は祖父母との同居世帯が多く、日中子守をしているが公園や児童館へ出向いても孤立してしまうので出かける場所が欲しいという要望があったため、子育て支援は家族を含めたものであると考え祖父母が孫を連れて集まる場を企画した。	
提案者 住民 母子保健担当者	
事業のねらい・目標 祖父母の子育ての仲間づくりをし、地域で孤立せずに楽しく子育てできるように支援する。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標 なし	
対象 乳児 幼児 母親 家族	
実施期間 平成 14 年 4 月 ~ 平成 19 年 3 月 5 年計画	
実施内容 主に祖母が就園前の乳幼児と一緒に参加する。内容は手遊び・紙芝居・自由遊び・昼食と座談会である。個別に保健師の育児相談も行っているが参加者同士で情報交換したり相談し合うことが多い。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化	
協力機関 地域のボランティア	
住民参画状況 なし	
従事者内訳 保健師 その他(祖母と同世代の保健師が講師として参加)	
補助金・助成金 なし	
今後の課題 現在月1回実施しているが、回数を増やして欲しいという要望があり、自主活動について検討していきたいと考えている。	
キーワード 子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実	

事業の評価 未受診者の状況が把握できた割合で評価	
今後の課題 外国人の未受診者が多く、電話番号がすぐに変り連絡が取れない、昼間働いていて連絡がつかない、言葉が通じない、外国人登録は市にあるが帰国して住居にいないなどのことがあり、状況が把握しきれない。 国際交流協会の協力を得て、手紙を翻訳してもらったり、通訳と動向で訪問することができる状況が把握できないことが多い。	
キーワード 子ども 育児不安	
コメント	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ ここに注目！一 乳幼児健診未受診者への対策は多くの市町村の課題であるが、毎年の実績値の積み上げを単に報告として用いているのではなく、日常業務を分かりやすい形で数値化して評価している点が注目される。その結果として、外国人家族という具体的な支援対象者が明確化でき、かつ「電話番号がすぐに変り連絡が取れない、昼間働いていて連絡がつかない、言葉が通じない、外国人登録は市にあるが帰国して住居にいないなどの状況把握から、国際交流協会の協力により、手紙の翻訳、通訳との同道訪問などに結びつけることが可能となったといえるよう。 エビデンスは？一 子育て支援の立場から乳幼児健診未受診者へのアプローチが必要とのかけごえは高いものの、その方法論については個別の保健機関ごとの事例報告が散見されるのみである。有効な人的資源の活用方法、住民の同意を取りつけるために必要な条件などぜひともエビデンスの集積が必要である。(YY)

祖父母会

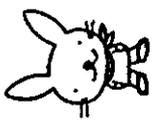
祖父母会は平成11年度からはじまりました。毎月第4月曜日、午前10時～正午に総合福祉センターで実施しています。平成16年度のメンバーは27人、毎月20組以上の参加があります。内容は手遊びや紙芝居、絵本などの後、自由遊びと参加者同士のおしゃべりの時間を多くとるようにしています。昼食(大人用、子供用のお弁当を準備、実費購入)を食べて終わります。そのまま誘い合って児童館で(同じ施設にあります)遊んでいく方が多くなくなっています。参加者は、10か月～就園前の子どもと祖母で、孫と同居が60%、母親が働いているため日中の子育てのほとんどをしている祖母が45%です。仕事を休んで別居の孫を連れてくる人もいます。「子育ての励みになる」「仲間ができて、おしゃべりが楽しみ」「祖父母会を名目に孫を連れて出られる」など、好評です。



・・・・・・ コメント・・・・・・

ここに注目！― 孤立した子育てをなくし、虐待防止はもちろん「楽しい子育てにしてほしい」との思いから、住民(母親)が自主的に開催するサークルを立ち上げた。サークルでは、栄養士によるおやつづくりや保育園見学(母親)による地域との交流などが行われており、その連絡はメールで行い、保健師がメールで相談も受けている。母親同士もメールで連絡しあっている。活動事業を展開する方法(母との連絡や交流方法)に楽しさが感じられとても暖かい。

エビデンスは？― 子育てを支援するネットワークづくりには、長い経験の蓄積がある。例えば、愛育班活動や食生活改善推進員、母子保健推進員による地域活動など母子保健行政と住民とが一体となった半世紀以上の歴史を持つ活動が現在も継続されている。近年では保育や社会福祉の分野を中心とした子育てネットワークの一の養成や母親同士の自主グループづくりも盛んである。その組織構造として、歴史的には住民参画(community participation)ではあっても上意下達型の情報伝達が行われていたものから、近年ではヘルスプロモーションの理念に基づいた住民のエンパワーを目指すものに変わっている。この事業においても、ヘルスプロモーションの視点がよく生かされている。(YY)



御前崎町 健康福祉課 : チャイルド・くらぶ(地域サークル)	
〒421-0602 静岡県榛原郡御前崎町白羽 5403-20 (TEL) 0548-63-6861、(FAX) 0548-63-2517	
人口 12,000 人(出生数 110 人)	
母子保健担当者: 保健師、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分: 市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	子育て中の親子に会う中で親子だけで普段の生活をしており、母子が孤立していると強く感じました。虐待傾向で問題としてあがるケースも、町内に親戚や友達がいけないなどの点が問題として上がり、孤立した子育てをしている。孤立した子育てをなくし、虐待防止はもちろん楽しい子育てにしてほしいと思います。サークル活動を始めました
提案者	住民 母子保健担当者
事業のねらい・目標	サークルでの仲間づくりから虐待防止 チャイルドくらぶでは、親子遊びの学習、地域のひととのふれあい、保育園見学など地域施設との交流保健師が親子とふれあう時間を増やし、親子との信頼関係の構築と乳幼児の発達の遅れなどの早期発見 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	なし
実施期間	平成 15 年 6 月 ~ 平成 16 年 3 月 1 年計画
事業内容	地域サークルでは、地域の区民館を会場として利用。住民(母親)が自主的に開催 サークルでは、栄養士によるおやつづくりもおこなう。 初回におやつ会を開き、サークルの PR と仲間作りに役立ちました。 母親たちとの連絡手段は、メールで行い、気軽に他の相談も受けられるようにしました。 同サークルの母親達もメールで情報交換をしています。
協力機関	保育園 幼稚園 地域のボランティア
住民参画状況	計画から参加 実施主体側として
従事者内訳	保健師 栄養士
補助金・助成金	なし
事業の評価	事業実施中
キーワード	子ども 育児不安 ■地域の子育て支援の充実 ■虐待の発生予防 ■食育の推進

王寺町役場 保健福祉課 健康管理係：ちびっこクリーン活動 〒636-8511 奈良県北葛城郡王寺町王寺2丁目1番23号 (TEL) 0745-73-2001, (FAX) 0745-32-6447 (E-Mail) yawaragi@town.ojinara.jp (ホームページ) http://www.town.ojinara.jp/ 人口 23,539 人(出生数 206 人) 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・歯科衛生士・その他(医師、歯科医師、臨床心理士、保育士、眼鏡士、助産師、看護師)、全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 6 人) 区分:市町村	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 1. 王寺町内にゴミを捨てている場所がある(道路・川・公園など) 2. ゴミのポイ捨てをする人がいる
事業の背景	住民
提案者	住民
事業のねらい・目標	1. ゴミのポイ捨てがなくなり、きれいで安全な住みよい町になる 2. 子どもの頃からゴミを捨てないというマナーが身につく ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	あり
対象	幼児 学童 父親 母親 家族
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月 5 年計画
事業内容	1. 子育て教室や乳幼児健診などの機会に情報教育の一貫として、ゴミを捨てないというマナーを呼びかける 2. クリーンキャンペーンに親子で参加できるように呼びかける 3. 啓発用の子どもにもわかりやすい紙芝居・リーフレットの作成
協力機関	その他(自治会)
住民参画状況	計画から参加
従事者内訳	保健師 保育士
補助金・助成金	なし
事業の評価	○クリーンキャンペーンに参加する親子が増える(増加傾向) ○ゴミとマナーをテーマにした紙芝居を親子に見せる回数が増える(増加傾向) 事業実施前
取り組みの事業に関するホームページ	http://www.town.ojinara.jp/
キーワード	マナー

(76)

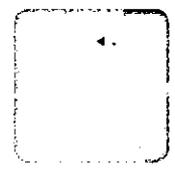
**** コメント ****

ここに注目！一 ゴミのポイ捨てをなくすというマナーを子どもから身につけるという社会規範に基づいて、保健活動を展開している点が新しい。対象や取り組み方向性が現代的な感覚に満ち溢れている。今後、社会貢献、子育て、まちづくりなどさまざまな展開も予想される。同町には特技ボランティアを募集し、ボランティアの特技や利用者の要求に応じて乳幼児の集まりの場に派遣する事業もあり、その先進性、発想の柔軟性は特筆に価する。

エビデンスは？一 通常こうした活動は市民グループの自主活動で取り組まれており、その場合には、市民としての自主性に基づくものである以上、事業としての評価は困難と思える。この事業では評価指標として、クリーンキャンペーンに参加する親子が増えること、およびゴミとマナーをテーマにした紙芝居を親子に見せる回数が増えることを挙げ保健活動としての効果測定も目指している。こうした数値目標を設定することで、その目標達成に必要な手法や資源が科学的に検証される可能性があり、評価結果をおいいに期待したい。(YY)

コラム 特別なニーズを持つ住民グループへのアプローチ

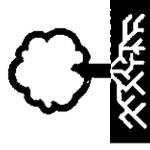
保健活動においてより幅広い住民の課題に応えることの重要性とともに、より困難を抱えたグループへの個別のアプローチの重要性も認識されてきている。特別なニーズを有するグループの課題の解決から地域全体の健康増進へつなげる手法である。次の4つの事業はそれぞれ障害児・者や外国籍家族、多胎などターゲットとして選ばれているグループは異なっているものの、地域の中でそうした個別の保健ニーズを持つ住民グループを的確に捉え、保健事業として企画、事業化することの有用性は、国際保健における focus group discussion による検証をはじめとして、さまざまに実証されつつある。この場合重要なことは、その評価として量的な評価よりも、質的評価に重点をおく必要がある。事業評価として数値化が求められている実状から、同じ評価方法でこれらの事業に対応すると思わぬ誤解や間違った評価につながる可能性もあり留意が必要である。(YY)



今後の課題	自主グループの育成
キーワード	ふたご、多胎児、育児支援 ■地域の子育て支援の充実
*** コメント ***	ここに注目！— 多胎児を持つ家族という育児支援としてニーズの高いターゲットへの取り組みである。医学的な知識や社会資源の少なさなど特有の不安を持つ母親への情報提供や母親同士の情報交換、先輩ママ達の体験談を聞くなどの交流会が行われている。自主グループ数の増加を当面の目標としたことで、うまく説明責任を果たせる可能性が高い。 エビデンスは？— 多胎児の発生頻度は相対的に増加しており、かつ虐待の発生頻度も高いことなど家族の不安軽減は解決すべき重要な課題である。医療機関が主催するものや保健機関が主催するものなど活発に行われているが、不安の軽減という目標は評価が困難な事が多い。事業の評価として「クラブ実施後のアンケート」による質的検討とともに「教室終了後の自主グループの数が挙げられており、今後、自主グループ数に与える事業実施上の要因を分析することなどから、こうした交流の場がただあればよい、という評価から、この点で有益というエビデンスが得られる可能性がある。(YY)

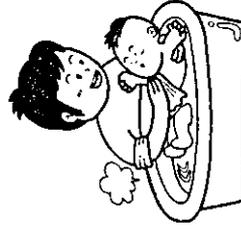
さいたま市保健所：保健センター事業ふたごちクラブ	
〒338-0843 埼玉県さいたま市大宮区吉敷町1丁目124番地 (TEL) 048-648-2267、(FAX) 048-648-2087	
人口 1,057,365 人(出生数 10,528 人)	
母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・歯科衛生士、 全保健師数 99 人(母子保健担当保健師数 61 人) 区分:政令市・特別区(本庁・保健所等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	近年、医療技術の発展に伴い、双子・三つ子を含めた多胎児の出産が増えている。多胎児の妊娠は、とてもうれしい反面、出産や育児の事がイメージできないなど、具体的な情報提供が単胎に比較し不十分であるため、より不安な気持ちを抱くことから、双子などの育児支援事業を実施することが重要であると考えた。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	1. 単胎と比較しハイリスクである多胎の妊娠、分娩に対して適切な保健指導や相談を行い、妊婦の不安の軽減を図る。 2. 多胎児特有の育児不安を持つ母親同士の情報交換ができる場とする。 3. 先輩ママ達の体験談を聞く ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	なし
対象	乳児 父親 母親 妊産婦
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 16 年 3 月 1 年計画
事業内容	1. さいたま市独自のテキスト「ふたごちクラブ」を作成。(医学的な知識や社会資源についての情報の提供) 2. 多胎児の親たちとの交流会 3. 託児の実施 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化
協力機関	地域のボランティア その他(助産師会)
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	なし
事業の評価	1.ふたごちクラブ実施後のアンケートにより内容の検討 2.教室終了後の自主グループの数 ■今後も継続する

取り組みの事業に関するホームページ	子ども 育児不安 母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■地域の子育て支援の充実 ■病氣や障害のある子どもへの支援
キーワード	*** コメント ***
	障害児や発達に問題のある児を対象とした音楽療法の実施。障害児に対する音楽療法は、親もリラックスでき、子どもも喜んで日頃のストレスを発散でき有効な取り組みである。障害児や発達問題を抱えている子どもは、日頃の生活自体が閉塞的になりやすく、音楽を介したグループ遊びなどは、親にとっても参加しやすく歓迎されることを経験している。人口規模からみても、ほぼ地域の障害や発達の問題を抱えた子どもたちの全員が参加できると考えられ有効な取り組みと評価できる。(TN)



飯南町役場住民福祉課ふれあいセンターほけんふ室 療育教室(音楽療法サークルM)	
住所 〒515-1302 三重県飯南郡飯南町横野 885 (TEL)0598-32-8020 (FAX)0598-32-4634 E-Mail hokenfu@town.iinan.mie.jp ホームページ http://www.town.iinan.mie.jp	
人口 5,997 人(出生数 49 人)	
母子保健担当者:保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1 人) 市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)
事業の背景	障害児や発達に関して観察が必要な児及び保護者を対象に音楽療法や遊びを通して発達を促したり、他の児や保護者と交流を行うことで心身ともにいきいきと過ごせる空間を提供することが必要であると考えた。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	障害児や発達に関して観察が必要な児に対し、音楽療法をとおして発達を促し、心身の安定を図る。また保護者等相互の情報交換、交流を図り支援していくことを目的とする。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	数値目標なし
対象	幼児 学童 思春期 父親 母親 家族 関係者・関係機関
実施期間	平成 13 年 4 月 ~ 平成 18 年 3 月 5 年計画
事業内容	音楽療法士による音楽療法を行う。内容は、保護者の代表、音楽療法士、担当者等が毎回決める。音楽に合わせてみんなで歩く。音楽に合わせて好きな楽器を鳴らす。季節の歌を歌う。スクリーンやパスタオルなどを使用し、音楽に合わせて視覚や感覚を刺激する。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化
協力機関	子育て支援センター 保育園 学校 地域のボランティア その他
住民参画状況	計画から参加
従事者内訳	保健師 保育士 教員 その他(音楽療法士)
補助金・助成金	なし
事業の評価	なし
今後の課題	なし

事業の評価	①大半が実家に帰っている時期であっても、新生児期の育児に対する母親の不安は強く、早期に支援することにより不安の軽減につながることができたと考え、また、家庭と保健師とのパイプが早期に出来上がることで、電話等で必要な時にすぐに相談に応じることができた。／②産婦人科と連携することにより、早期にスムーズに家庭に入り育児支援することができた。／③病院内助産師と支援内容の情報交換ができたことにより、病院内での支援内容を考慮した上で、母親を混乱させることなく地域での育児支援につなげることができたと考える。
今後の課題	①訪問を希望しないハイリスク親子へのかわりをどうするか。ハイリスク基準を設定し、希望の有無にかかわらず訪問対象とするか、全数訪問とするか検討中。／②早期に母子を支援し、虐待予防につなげるためにも、母子健康手帳交付時に実施している妊婦アンケートの情報及び妊婦健診の情報をどのように生かし産科と連携をしていくか今後検討していく必要がある。／③夫の育児参加への働きかけをしていく。
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	新生児訪問 ■地域の子育て支援の充実
*** コメント ***	周産期からの育児支援に対する取り組みであり、市内1カ所の分娩施設(総合病院)産婦人科と連携、退院後の保健師の家庭訪問に繋げ、必要に応じて医師、福祉事務所と連携をとるシステムを構築している。保健と医療機関の連携のモデル。新生児期に膨らむ子育て不安を医療機関と保健機関の連携により防止し、その後の一貫した子育て支援へと結びつける。多くの地域で計画されるが、実施にはさまざまな困難がともなうシステムであり、多機関、多職種連携が機能している点で評価したい。(TN)



尾鷲市福祉保健課 ①健やか赤ちゃん訪問事業	
住所	〒519-3652 三重県尾鷲市米町5-5 (TEL)0597-23-3871 (FAX)0597-23-3875
E-Mail	phiteam10@beach.ocn.ne.jp
人口	24,352人(出生数169人)
母子保健担当者	保健師 栄養士、全保健師数8人(母子保健担当保健師数3人) 市町村(保健センター等)
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ (栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)
事業の背景	県健康福祉部子ども家庭チームから児童虐待は早期予防が課題であり、新生児期からの母子保健活動での取り組みが重要であるとの提案があり、産婦人科医及び助産師等との連携のもと早期新生児訪問による保健師の介入により育児支援と同時に虐待防止につなげる対応が重要ではないかと考えた。
提案者	その他(三重県健康福祉部子ども家庭チームマナージャー)
事業のねらい・目標	①母親が身体的精神的に不安定にならなから、新生児の時期から母子に関わり育児を支援していく。②医療機関(産婦人科)との連携をはかる。／③虐待の予防及び早期発見につなげるための、家庭とのパイプづくりを努める。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	数値目標あり
対象	新生児 乳児
実施期間	平成14年4月～継続
事業内容	①尾鷲総合病院(市内の出産可能病院1カ所のみ)の産婦人科の主治医及び病棟看護師長より退院時に保健師の訪問を勧めもらう(保健師作成の訪問のお知らせを配布)。／ ②訪問希望者より提出された依頼書を保健師に送付してもらう。／③1ヶ月健診までを目安に保健師が訪問する(必要に応じ、栄養士につなげる)。／④必要に応じ、小児科医、産婦人科医及び社会福祉事務所と連携をとる。／⑤医療機関に訪問報告書を提出する。 ■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進
協力機関	病院
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 栄養士
補助金・助成金	なし